

玄関

# 玄関は、ただの出入り口ではなく「語らいいの場」に

元々農家と畑だったというその場所は、現在数件の住宅が建っている。その中で一際目立つ家があった。表札とポストはあるのだが、その先には玄関が見当たらない。あるのは大きな窓。どうしたものかとしていると、奥から声が聞こえてくる。施主の関勝輝さんが、左側の細い通路の前にある玄関を開け、顔を出しているのだ。理由がある。「住宅の正面は南向きになっているので、大きな開口部を取り付け、光をいっぱい採りこまないともったいない」と話すのは、設計を

行った中村真也さん。関さんも「初めて来たお客さんは、みんなどこから入ったのかわからないというんですよ」と笑って答える。施工は千葉県船橋市の工務店の(株)みくに建築(麻野那智子代表)。中村さんと関さんと担当した大工は、施工が始まった毎週の終わりに集まり、様々なアイデアを話し合ったという。

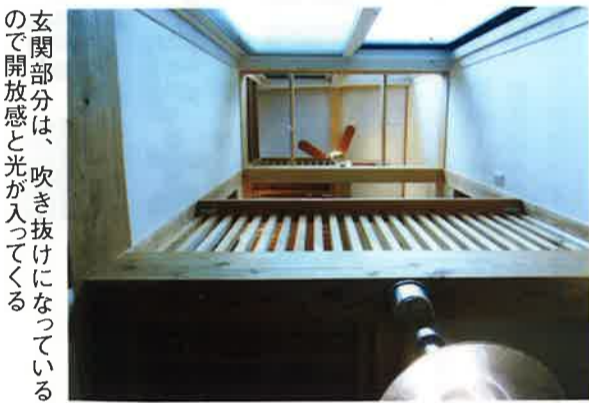
玄関を開けると、まず驚くのが「どこまでが玄関なのか」と思えるほど広いこと。部屋の中央にまで広がるこの土間を、作った理由として、関さんは「ここを語らいいの場として利用したかったんです。部屋に通じる段差に腰かけて、肩ひじ張らずに話せる場になってくれたらいいと語る。大きな階段も、玄関から伸びているから驚きだ。人数

が多くなれば階段の段差に座る人もいるという。収納スペースも段差の中に作り、無駄なスペースはほほほい作りなので、坪数は30坪もないが、狭さは感じない。むしろ開放的にすら感じる。玄関部分は吹き抜けになっている。大きな開口部からは光が差し込んでくる。また、2階の廊下は、玄関真上の床だけのこにしてあり、間隔が12mm開いているので、そこからも光を通し、玄関部分の明るさに一役買っているのだ。

中村さんは「今の住宅は、玄関がただの出入り口になっている場合が多い。少しの発想を転換するだけで、玄関もこうした居心地の良い空間になる」と思いを語った。玄関に集まり、そこが語らいいの場になる、そんな住宅だ。

2階廊下のすのこと、土間にある収納スペース

ここにスケジュールなどを書きこむ



玄関部分は、吹き抜けになっているので開放感と光が入ってくる



玄関ドアにある黒板。ここにスケジュールなどを書きこむ



2階廊下のすのこと、土間にある収納スペース



Life with Green Technology  
**三協アルミ**

## 価値観が変わる。

自然木の香りが漂いそうな年輪の再現、  
手技の雰囲気を感じる味わいある鋳物格子、  
いたるところに伝統の技が息づく「ファノバ」。  
みんながイイね!とつばやく玄関ドアの誕生です。

NEW

探偵タイプ

ネクスト玄関ドア

# FANOVA

ファノバ